

GPT-5.5が知財実務にもたらす変革：ツールから「自律型エージェント」への進化

実務のための新しい知性：テキスト生成を超えた自律的なタスク遂行能力と法的推論

GPT-5.5の技術的評価（ベンチマーク）

主要なモデルとの性能比較

ベンチマーク	GPT-5.5	GPT-5.4	Claude Opus 4.7
GDPval (44職種)	84.9%	83.0%	80.3%
OSWorld-Verified	78.7%	75.0%	78.0%
BigLaw Bench (法律)	91.7%	91.0%	-

人間の専門家を上回る
コンピュータ操作能力

78.7%

OSWorld-Verified
人間の専門家の基準値
(72.4%) を大きく凌駕

法律業務における
圧倒的な精度

91.7%

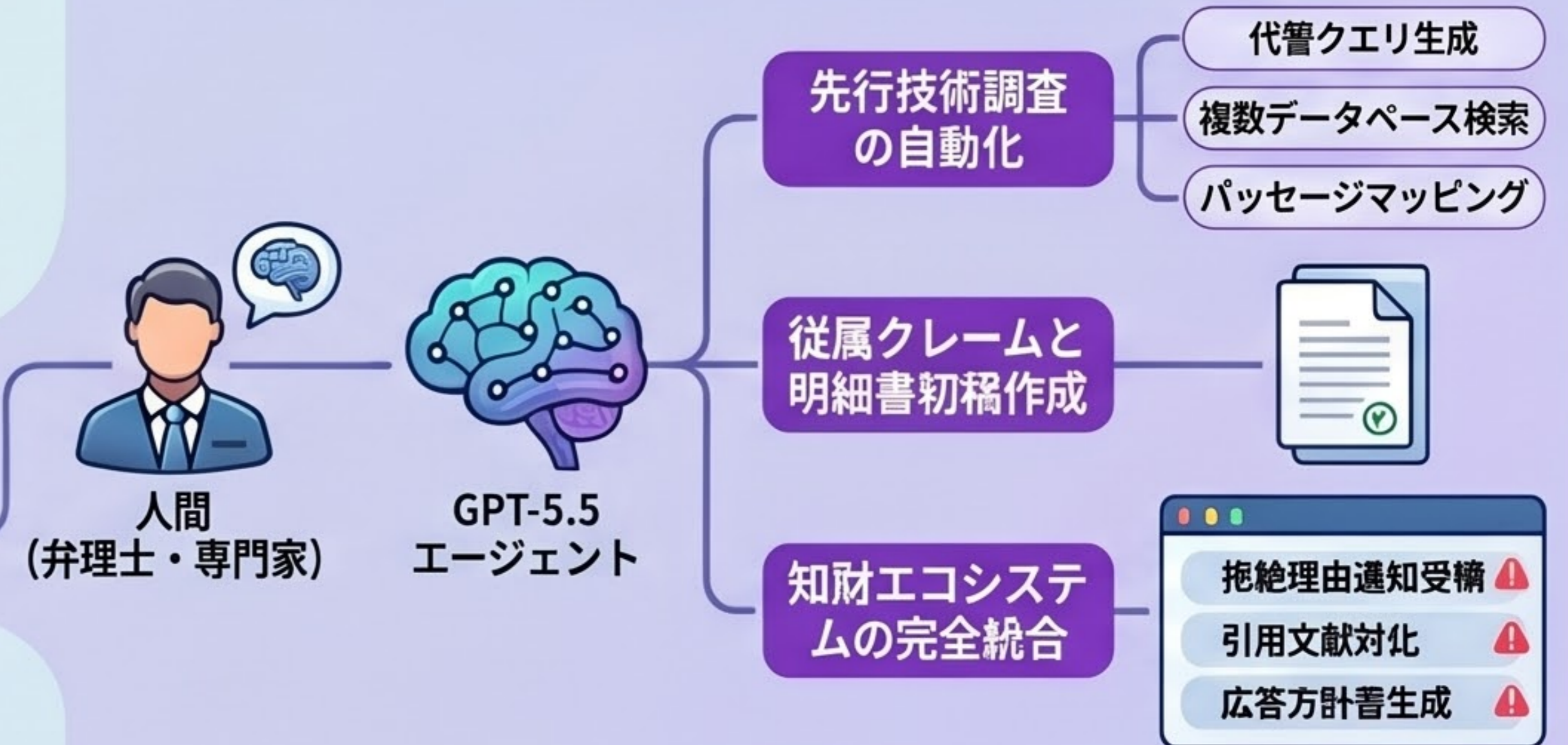
Harvey AIによる評価
43%のタスクで完備なスコア、
他評価 (0.50未満) はゼロ

「実務のための知性」への進化：エージェント型コーディングや
接離なマルチステップタスクを自律的に実行できる能力が最大の特徴



特許実務における変革

人間とAIの新しい協働モデル：人間が独立クレーム、AIが
従属クレームと明細書初稿を作成する役割分担が定着



商標調査と法的な枠組み（2026年問題）

商標調査と効率化



商標調査の劇的な効率化

画像入力によるウィーン分類の審査、
公的機関 (USPTO) によるAI類似商標
検索ツールの提供

著作権と発明者適格性



\$3,000/冊

Anthropic社税解により1冊3,000ドル
という指標が形成されつつある



発明者は「自然人」に限定

日米最高裁はAIを発明者・著作者と
認めない。日本の法廷正では人間がAIを
道真として使った場合は特許対象

結論：知財専門家に求められる新スキル



求められる「オーケストレーション能力」

高度なAIエージェントを指揮・監督し、人間の専断的判断と
AIの処理能力を最適に融合させるスキルが不可欠